

令和4年度農林水産データ管理・活用基盤強化事業  
農機 API 共通化コンソーシアム第1回事業検討委員会  
議事概要

日 時：令和4年6月29日（水） 13:00～15:00

開催方法：Microsoft Teams によるオンライン開催

出席委員：澁澤委員長、西村委員、川村（周）委員、安場委員、高山委員、土’方委員、齋藤委員、丸田委員、大山委員、山ノ上委員、生駒委員、天辰委員、川口委員、藤盛委員、戸谷委員、藤村委員、宮原委員、榎委員、村田委員、藤原委員、府中委員、西口委員、川村（隆）委員、田中委員、塩見委員、古山委員、大森委員、林委員、臼井委員、青木委員、野田委員、深津委員

**【ポイント】**

1. 令和4年度事業のキックオフ会議となる事業検討委員会を開催。出席者96名。令和4年度の事業検討委員長に澁澤委員を選任。
2. 議事次第に沿って、コンソーシアム事務局（農機研）より本事業の推進体制、具体的な推進方針および年度末の成果目標等について説明。その後、WG1～3の進行管理役よりWG毎の推進体制および活動計画、令和4年度に新たに設置した将来像WGの策定背景と今後の活動方針を説明し、承認。
3. 委員からは、WG1とWG2は同じ水稻作を対象に別々の経営体を対象に実証していくとのことであるが、今後の利用体系を踏まえて十分に意見交換をしながら進めるべき、WG3は現場ニーズや生産者の意見を重視しながら進めるべき、将来像WGは、考え方として今のWG1～3までの間で横串をさして進めた方が良い等の助言。
4. 事務局からは、本委員会での議論は各WGでの活動に可能な限り反映させる方針であること、1年と短い期間ではあるがWG間で情報を共有して連携して進めていく旨を伝達。最後に、昨年度取りまとめた農機OpenAPI仕様に沿ったAPIがコンソ構成員からWAGRIに実装されたことの紹介、第2回事業検討委員会（中間取りまとめ）の開催日程調整（10月25日（火））を行った後、閉会。

概 要：次第に沿ってコンソーシアム全体計画、各WGの計画を説明し、質疑応答を行った。  
概要（委員からの主な指摘事項と事業担当者からの回答）は以下のとおり。

**【開会と挨拶挨拶】**

1. 大臣官房 政策課 上原 健一技術政策室長より挨拶
- この「農林水産データ管理・活用基盤強化事業」は技術政策室の事業として進めるもの。今年度は営農により資するデータとして、収量や穀粒判別器等の検査機器、温風暖房機等の施設園芸機器の稼働情報等のデータについてメーカーの垣根を越えてデータ連携できる環境整備に取り組み、また、理想的なデータ連携の在り方についても議論を行うと聞いている。
  - このようなオープンAPIの整備の推進は農業分野でのデータ連携を進める上でも重要な取組と認識しており、引き続きどうぞよろしくお願いする。

2. 農研機構農機研 天羽所長より挨拶。

- 本事業は、「みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業費補助金等のうちスマート農業総合対策事業のうち農林水産データ管理・活用基盤強化事業」として、農研機構が代表機関として実施するものである。昨年度は関係者各位のご協力によって、メーカー各社が API を実装する際の基準となる「農機 OpenAPI 仕様書」等、各種成果物を策定、公表することができた。
- 本年度も昨年度と同様、ほ場農業機械、穀物乾燥調製施設、施設園芸機器のワーキンググループ (WG) を設けるとともに、新たに将来像 WG を設けて、データ連携のあるべき姿について議論していく。さらに、昨年度事業で接続検証を実施した API について、生産現場における有効性の検証を行うので、ご協力をお願いする。
- 本委員会の委員の皆様には、昨年度と同様に「農機オープン API 共通化コンソーシアム」への助言・ご指導をよろしく願う。

**【委員紹介・委員長の選任】**

1. 委員の紹介と委員長の選任

- 委員長は農業機械研究部門の所長が選任するものとされており、昨年度に引き続き、澁澤委員に委員長を要請。

2. 澁澤委員長より挨拶。

- 本事業は国際水準の仕様として検討されるべきであり、コストと収益の2つしか指標のない従来型の事業と異なり、成果と効果を測る新しい指標の探索が重要。
- 周辺状況として、埼玉県ではスマート農業技術の普及促進事業開始後4年経ったが、本事業で決めたようなオープンAPI装備機種種の普及を要件として補助事業が進められている状況であり、今後こういったケースが増えることを期待。
- 本日の会議、事業全般を確認し、改めてその全体ベクトルを定めることが重要。個別課題の解決と全体ベクトルの推進が相互に補完し合う関係を確認したい。

**【事業全体計画】**

- 具体的な成果目標の「一元管理できることを実証」は技術的な問題であり、イコール我々の問題。2年目なので成果のとりまとめに際し、その結果が生産現場あるいは農家にもたらす効果についても確認が必要。

**【WG1（ほ場農業機械）】**

- 機械の単純な位置情報などとは異なる収穫データを扱うので、協調領域と競争領域、農機具メーカーとベンダーが使う営農管理システムなどの仕分、棲み分けが必要。
- 収穫情報については、例えば収穫してトラックで粃を運んでくる場合、共乾施設ではトラック1台毎に水分、タンパク等の品質情報を測っているため、データをうまく繋げることが農家にとって有用。WG1とWG2で相談しながら、うまく情報が繋がるようにしたい。
  - 進行管理役より「WG1の検討調整事項について協調領域なのか、競争領域なのかという視点も加えて整理する。本コンソーシアムで整理すべきは協調領域であり、ワーキンググループを横断したデータ連携のあり方については将来像WGでも検討する。ほ場現場から乾燥施設へ収穫情報を受渡す際に、実態とデータを一致させるのが難し

い点であり、今年度の実装に盛込むのは無理があるが、データ連携のあるべき姿として検討する」旨を回答。

- 収穫情報は米のみでなく、麦や大豆、飼料作など穀物全般に通用するような手段も検討が必要だが、米でうまくいけば後は活用、応用できるであろう。
  - 進行管理役より「コンバインに限らず、収穫作業のデータの一つとして収穫量を汎用的に扱えるようなデータの表現の仕方を検討する」旨を回答。

#### 【WG2（穀物乾燥調製施設）】

- 現地実証と接続検証の違いについて、乾燥機を対象に現地実証を行い、検査機器は接続検証まで実施する計画ということか。乾燥機を対象とした現地実証については WG1 と合同で行う計画か。乾燥機の設置施設は、共同荷受け施設か、それとも、個人・法人を対象とした施設か。
  - 進行管理役より「現地実証と接続検証の違いはご指摘のとおり。WG1 と WG2 の現地実証について、今年度は別々の生産者・団体を対象に行い、WG 毎に API の有効性を実証する計画。同じ生産者を対象とした水稻生産体系一連の検証までは実施できないが、随時双方の状況を確認しながら進めたい。なお、WG2 の今年度の実証先は個人のライスセンターである」と回答。
- 検査機器の取扱いについて、生産者をデータの利用者として検証を行う場合、早い段階でユースケースの設定が適切であるかを判断してもらうべき。

#### 【WG3（施設園芸機器）】

- 施設園芸関係は、施設内の環境データ、気象データ、生育情報データ、収量・品質データなど、非常に膨大なデータがあり、それをどのように組合せて生産性向上や高品質生産につなげていくか、低コスト生産、所得向上を目指す検討が必要である。また、センサ機器については、センサの仕様、メーカーの情報、センサの検定に関する情報等をどのようにデータとして渡すかが課題と考えられる。
  - 進行管理役より「現場実証から得られた現場ニーズや生産者の意見を尊重して進める。また、センサ機器の情報については、センサのメタ情報として検討し、整理したい」と回答。

#### 【将来像 WG】

- 例えばきゅうり産地の場合、農協の組織の中で生産者の情報をうまく生かして欲しいと思っている。データは膨大になるので、集まったデータを臨機応変に、利用の仕方や目的が現場毎に異なるものとする。
- WG0 は、具体的課題が定まっている訳ではないが、考え方として今の WG1 から WG3 までの間で横串をさして進めるべきコンセプトメイキング、あるいは具体的な方策、さらにその上の設定条件などを含めて議論をすべき。

#### 【その他】

- 事務局から令和3年度の成果として、昨年度取りまとめた農機 OpenAPI 仕様に沿った API がコンソ構成員から WAGRI に実装されたことを紹介。
- 次回の第2回事業検討委員会（中間取りまとめ）の開催は、10月25日（火）で調整。

—以上—